

利用者のために

「海外食料需給レポート 2015」は、2015/16 年度の穀物等の国際需給の動向を中心に需給構造の変化、我が国の農産物貿易の動向を検証するとともに、農林水産政策研究所の研究成果も活用しながら主要生産国及び消費国の食料需給の背景にある要因、将来の食料需給見通し等について、様々な視点から総合的な分析を行い取りまとめたものです。

本資料は、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて調査した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料等を用いて総合的に分析したもので、毎年、北半球の生産が終了し、南半球の大豆やとうもろこし等の作付面積が明らかになるなど、世界の需給動向がほぼ判明する 1 月のデータをもとに作成しています。なお、データについては特に注釈がなければ、米国農務省報告データ(2016 年 1 月時点)に基づいています。

なお、2015/16 年度の穀物についての状況は概ね以下のとおりです。

【北半球】小麦、とうもろこし、大麦、ソルガム、米、大豆、なたね：収穫終了

【南半球】小麦、大麦、なたね：収穫終了

とうもろこし、大豆：収穫期（2 月頃から順次収穫開始）

利用上の注意

1. 2015/16 年度の数値は予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されるものです。また、2013/14 年度、2014/15 年度の数値も、公式統計の確定・発表などを受けて今後変更されることがあります。したがって、本資料に掲載している数値を利用する際は、今後変動する数値である点にご留意をお願いします。
2. 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として設定されています。同じ市場年度であっても、国、作物によって年度の開始月は異なり、収穫の時期が 1 年間に 2 回ある作物の場合は、どちらか一方の収穫時期に合わせて市場年度が設定されています。

例：米國小麦の 2015/16 年度は、2015 年 6 月から 2016 年 5 月であり、この時期に収穫される作物に関して予測が行われます。2015/16 年度であれば、2014 年 9 月～10 月頃に作付けされ、2015 年 6 月～7 月頃に収穫される冬小麦と、2015 年 4 月～5 月頃に作付けされ、2015 年 8 月～9 月頃に収穫される春小麦が、予測の対象です。

各国別、作物別の市場年度は、米国農務省のホームページに掲載されています。

<http://www.fas.usda.gov/psdonline/psdAvailability.aspx>

3. 各数量については、各国の市場年度により作成しているため、A国からB国に穀物等が輸出された場合、輸出された時点のA国の市場年度と輸入された時点のB国の市場年度が異なる場合があります。このため、世界合計の輸入量及び輸出量の両者の総量は一致しない場合があります。

4. 単位については特に断りのない限りメートル法にて表記されています。従って、トン はすべてメトリックトン（1,000kg）です。

ただし、現地の単位で表記された表・グラフがありますので、以下の換算表にて換算 願います。

1 ブッシェル=0.027216 トン（小麦、大豆）
=0.025401 トン（とうもろこし）
=0.021772 トン（大麦）

1 エーカー=0.40469 ヘクタール

5. 国・地域等の表記については、いかなる国、領土、土地、地域の境界線及び法的立場 について、これらに関する農林水産省の見解を示すものではありません。

※ 農林水産省では、農林水産省ホームページ内に「食料需給インフォメーション」 (<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/index.html>) を開設し、本レポートの他、世界の食 料需給の動向や将来見通しに関する以下の情報を提供しております。

- ◇ 穀物等の国際価格の動向（グラフ：毎週月曜日更新）
- ◇ 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移（グラフ及びデータ：毎月中旬更新）
- ◇ 米国農務省穀物等需給報告（世界及び米国の需給報告：毎月中旬公表）
- ◇ 海外食料需給レポート（Monthly Report）（主要品目別国別需給動向：毎月月末公表）
- ◇ 2025年における世界の食料需給見通し
- ◇ 2050年における世界の食料需給見通し

本資料に関する御質問、御意見等は、農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 までお願いします。

T E L : 03-3502-8111(内線 3805)

F A X : 03-6744-2396